

『モウコノウマの新しい群れができました』

多摩動物公園 齋藤麻里子

『モウコ』=蒙古=モンゴルにすむ、『ノウマ』=野生馬、これが今回ご紹介する動物「モウコノウマ」です。多摩動物公園では2013年の4月にモウコノウマを飼育展示する『アジアの平原』エリアがオープンしました。このオープンに合わせてオスのクヴァジー、メスのザルツァとパーニャがヨーロッパから来園し、多摩動物公園で生まれ育ったメスのダイアナ、エーコ、フルールが加わった6頭が群れになって過ごしています。野生では、1頭のオスが複数のメスとその子どもたちを率いて、群れを形成します。多摩動物公園でも、クヴァジーを中心に野生と同じような構成の群れができたこととなります。

もともととても神経質な動物なので、6頭を一緒に飼育し始めた当初は、何かあったときに収拾がつかなくなってしまわないかとハラハラしていました。しかし、実際群れをつくって飼育してみると、以前ダイアナたちを3頭で飼育していたときよりも格段に管理がしやすくなりました。夜間は1頭ずつ寝室に入っていますが、朝放飼場に出るときや夕方寝室に入るときに、まず始めにオスのクヴァジーが出入りすれば、他のメンバーはその動きを見て同じ行動をとりたがります。この団体行動には「さすが群れてくらす動物だなあ」と感じます。放飼場ではお互いを蹴って威嚇しあうことも度々ありますが、実はお互いの存在がとても大切で、仲間意識が強い動物なのです。

新しい施設では隣の放飼場に、野生ではモウコノウマの天敵となるオオカミを展示しています。施設の一番奥には、モンゴルの遊牧民が利用する住居「ゲル」を模した建物もあり、さながらミニチュアモンゴルといった雰囲気です。



～動物園の“かお”～

恩賜上野動物園 ミナミコアリクイ

バードハウス2階にいます。ぜひ会いに来てください！  
(写真は2013年2月15日生まれのメス「ひなた」)



撮影日 2013年10月30日

# みんなのために 連続立体交差事業 を推進します。

連続立体交差事業とは???

鉄道を一定区間高架化または地下化し、多数の踏切の除却と交差道路との立体化を一挙に実現する事業です。

踏切をなくして、イライラを解消！  
まちがひとつに、みんなが笑顔に！

-慢性的な交通渋滞は東京の深刻な課題-



救急車も遮断した踏切は通れない！

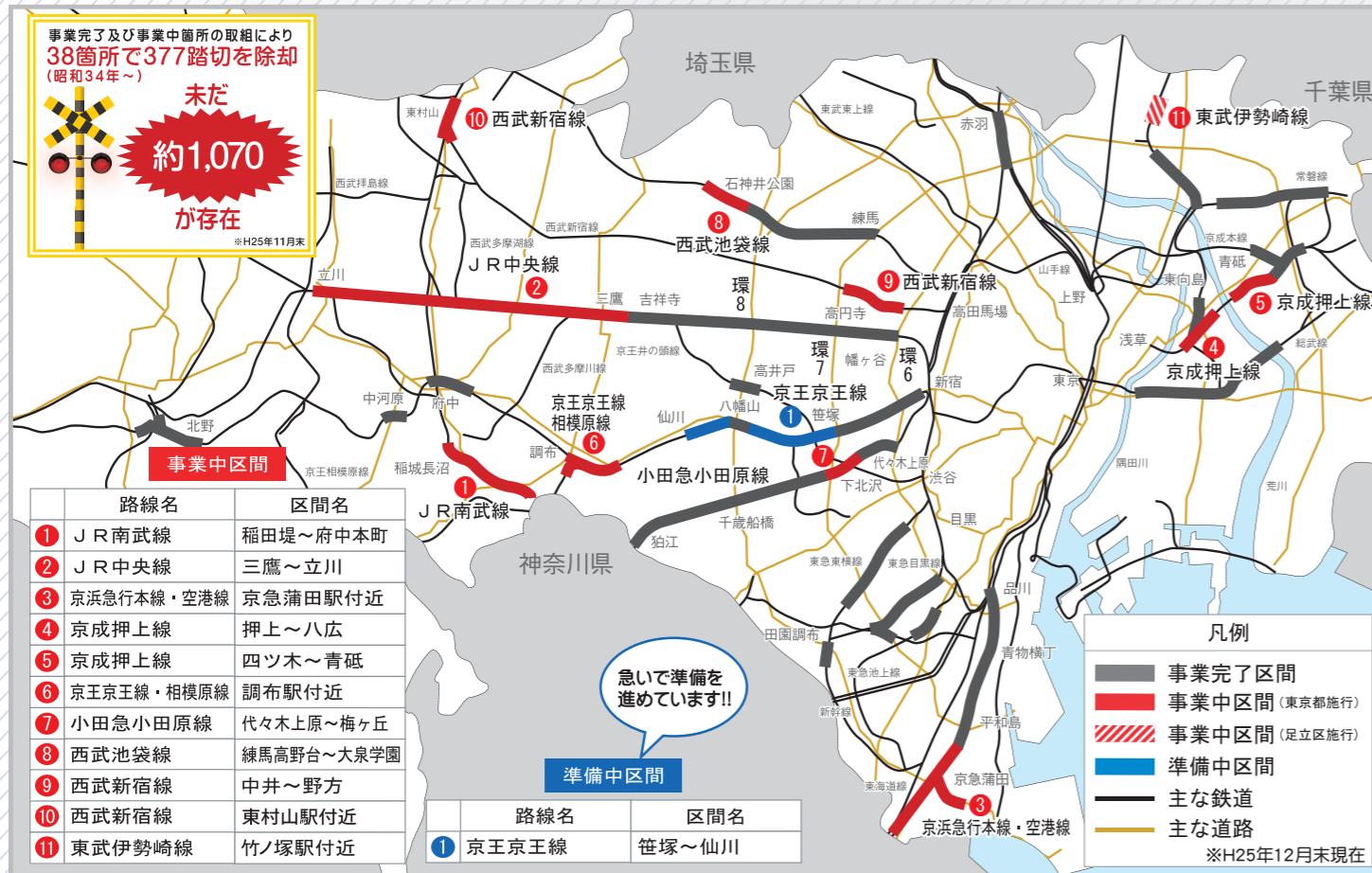
開かずの踏切に誰もがイライラ！

事業による効果

- 交通の円滑化  
⇒ ● 踏切がなくなり、交通渋滞が解消します！
- 安全性の向上  
⇒ ● 踏切事故がなくなり、道路と鉄道それぞれの安全性が向上します！
- 地域の発展  
⇒ ● 鉄道により分断されていた市街地が一体化し、地域の活性化に強いインパクトを与えます！
- 利便性の向上  
⇒ ● 各駅にエレベーター、エスカレーターが設置され、誰もが快適に利用できるようになります！  
● 新たに生み出される高架下等の空間の有効利用ができます！

事業完了及び事業中箇所を取組により  
38箇所ですべて377踏切を除却  
(昭和34年～)

未だ  
約1,070  
が存在  
※H25年11月末



急いで準備を進めています!!

準備中区分